

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：32816

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00818

研究課題名(和文) 中学校教員の専門を生かした小学校英語指導法のシラバス開発 - CLILを活用して

研究課題名(英文) Syllabus Development of Teaching English in Elementary School by Using the Homeroom Teacher's Speciality with CLIL

研究代表者

執行 智子 (Shigyo, Tomoko)

東京未来大学・こども心理学部・准教授

研究者番号：10789697

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：数学を専門とする中学教員の通信教育課程(小学校免許取得)の受講生は、数学の問題を英語で解く、数式を英語で言うなどが英語でと数学を関連付けられると考えていることから、小学校免許取得のための英語指導法では数学CLILを行うために算数の学習内容指導とクラスの運営に必要なクラスルームイングリッシュと数学でのやりとりのパターンの定型を導入すべきであることがわかった。その方法として配信動画を教材とする自主学習と確認テストが有効で有り、数学CLILの基礎となる使用言語を学習できることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「英語指導法」のシラバスに動画配信によるクラスルームイングリッシュと教科に使用する言語の自主学習教材と確認テストを取り入れることで、小学校での英語の授業に担任教員の専門科目を活かしたCLIL型授業を展開することが可能になる。その結果、児童は英語での教科特有の説明ややりとりに触れることができ、英語使用のための学習がより充実したものとなる。

研究成果の概要(英文)：According to the research of the math teachers of junior-high school in the elementary-teacher training course of the correspondence division, they supposed to instruct their students how to solve math problems in English in math CLIL. Thus, the syllabus of math CLIL in elementary school should involve learning the languages of math content and classroom English. The learning by using over-the-top video and test in class was found effective to build students' language which is needed in math CLIL class.

研究分野：第二言語習得、小学校英語、小学校英語教員養成および教員研修、CLIL、メタ言語能力、メタ音韻能力

キーワード：小学校英語 数学CLIL やり取り 言語使用 小学校担任教員 クラスルームイングリッシュ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年のグローバル化による多様化や、電子通信による多量の情報の拡散する社会で生きて抜くために必要な知識とそれを活用する力を育成するためには、専門科目に精通し、指導技術に長けている中学校教員の小学校教諭二種免許状取得を単位の軽減措置(「隣接校種の教員免許状の取得に係る教育職員免許法第6条別表第8」以下、軽減措置とする)により促進し、小学校担任教員としてその専門科目の知識と指導力を発揮させることである。これにより、教科教育において小学校中学校の一貫、継続した学びを児童に提供できるばかりでなく、いまだ解消されない小学校における教員不足を恒常的に解消することも期待できる。

ヨーロッパの外国語教育方法として発達した CLIL (Content and Language integrated Learning) は、日本においても担任教員が行う小学校外国語教育に適合しやすいと研究、報告されている。CLIL の授業を行うためには学習指導要領の柱となる「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力」を養うために英語と教科内容に精通し、CLIL の構成要素である「Communication」、「Content」、「Cognition」、「Culture/Community」を授業に組み込んでいかなければならない。この点では教科内容に特化、精通している中学校と小学校の両方の教諭免許状を取得している教員の方が小学校教諭免許状のみを取得している教員より CLIL 型の授業を行うことに向いていると思われる。

2020 年から開始される小学校外国語教育のために、中学校教員の専門知識を生かした CLIL 型の授業方法を含んだ大学における「英語指導法」のシラバス開発を火急に行うべきであると考え、本研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究では、軽減措置による大学通信教育課程において、受講生である中学校教員が自らの専門科目を生かした小学校英語教育の教授法を学ぶために、CLIL 型「外国語」「外国語活動」の授業展開を取り入れた「英語指導法」科目のシラバスを開発することを目的とする。

3. 研究の方法

1. 隣接免許(中学校)取得者の小学校における実態を調査するために、東京 23 区の教育委員会を対象に、隣接免許(中学校)を取って小学校で教えている教員の有無、および、その教員向けの英語の研修実施の有無について、電話にて聞き取り、あるいは、質問紙によるアンケート(各教育委員会の選択による)を実施した。
2. 小学校免許取得パック参加者の外国語・外国語活動への知識や意識に関して調査するために、東京未来大学通信教育課程小学校免許取得パック参加者を対象に、小学校外国語・外国語活動の見学の有無、小学校外国語・外国語活動教員研修参加の有無、研修の受講概要、および、CLIL が既知であるか、どのように自分の教科と関連させたいかについて質問紙によるアンケートを実施した。
3. 数学 CLIL に必要な教師の言語使用について調査するために、松井・藤原(2017)に掲載されている数学 CLIL の発話を執行・カレイラ[19]に基づき、I (initiation, 開始, 以下 I), R (response, 応答, 以下 R), F (follow-up, フォローアップ, 以下 F), A (adding, 追加, 以下 A) に分類し、どのような組み合わせになっているかを調査した。
4. 教科内容指導に必要な英語と授業運営に必要な classroom English の習得方法として配信動画を活用した自主的な学習方法の可能性を調査するために、東京未来大学小学校教員養成課程の3年生の学生を対象に、classroom English の配信動画を活用した自主的な活動の事前事後テストにおいてその効果を量的に検証、また、調査(アンケート)事後において、参加者が本活動にどのように取り組み、本活動をどのように受け止めたかを量的に調査分析した。

5.

4. 研究成果

上記 1 より、東京 23 区中 18 区の教育委員会に調査した結果、17 区の教育委員会では、当該措置で小学校教員免許状を取得し奉職している教員の有無や人数については把握しておらず、また、それらの教員対象の英語研修を行っていなかった。このことから、小学校免許取得の軽減措置パッケージ通信教育を有する大学こそが、小学校これらの教員の専門教科を活かし、教科横断的で思考力、表現力、判断力を育むための CLIL 型「外国語」「外国語活動」の授業展開を取り入れた「英語指導法」科目のシラバスを開発すべきであることが明らかになった。

上記 2 より、小学校免許取得の軽減措置パッケージ通信教育の受講生の実態調査をするために、東京未来大学通信教育課程小学校免許取得コース在籍者のうち現中学校教員 52 名に対してアンケートを行った結果、数学教員が一番多く 30%、体育 16%、社会 14%、理科 12%、音楽 10%、国語 8%、技術 4%、家庭・情報は各 2%であった。また、小学校外国語・外国語活動の見学をしたことがあるものは 42%、ないものは 52%、小学校外国語・外国語活動教員研修を受講したことが

あるものは4%、ないものは96%であった。さらに、自分の専門教科と関連させる学習(CLIL)について、名前だけ知っているものは4%、内容を知っているものは2%、実践しているものは2%、知らないものは92%であった。自分の専門教科と外国語教育を関連させた以下については、そう思うが37%、そう思わない16%、よくわからない47%であり、特に受講生として多くを占める数学専科の教員は、「自分の専門教科と関連させたい」と思っているものが27%にとどまっていた。しかしながら、それらの受講生は、数学の問題を英語で解く、数式を英語で言うなどが英語でと数学を関連付けられると考えていることがわかった。以上のことより、数学教員に負担が過多にならない数学教員向けのCLILプログラムを開発することが肝要であると思われる。

上記3では、上記1および上記2の結果を踏まえ、シラバス開発のための先行研究の分析において、数学CLILの可能性とそのために必要な教師の言語使用について調査分析を行った。その結果、数学CLILを行うために教師は、英語を使用して「具体的な経験をするための作業に必要な手順や概念をわかりやすい英語で言える」「内容に関わる語彙や抽象的概念を日常生活に結びつけて英語で説明できる」「児童一人一人の学びに合わせて英語で対話できる」ことが必要であることがわかった。また、それを実践するためには、「CLILにおける言語の役割は学習するために必要な言語を構築する言語使用域」と「教室での社会的活動を操作する言語使用域」の双方においての言語使用が必要であることがわかった。さらに、CLILで欠かすことのできないcommunication実践のためには、教室における対話の(1.the teacher's Initiation、2.the student's Response、3.the teacher's Follow-up or Feedback)が肝要となることがわかった。以上を実践するためには相当の英語力を必要とするが、先行研究の分析から計算の答え合わせのやりとりでは、担当する教師は翻訳した台本を覚え練習すれば、作業に必要な手順や概念をわかりやすい英語で言えたり、児童と共に、英語である程度対話を持続できることも明らかになった。

上記4では、上記3結果である踏まえ、小学校教員養成課程における「初等英語教育法」においてclassroom Englishと数学CLIL実践に必要な英語を学習するプログラム(動画とテスト)を組み入れたシラバスの開発を行った。具体的には、受講生が自主学習できる教材の選定と制作、授業中に行う確認テストの制作、数学CLILの実践方法紹介と模擬授業作成までの手順の考案を行い、これらを組み入れたシラバスを開発し実践した。その結果、受講生の認識語彙は事前事後においてほとんどの項目において増加していた。また、模擬授業において、挨拶、指示・注意などの英語は自主学習したclassroom Englishそのものを活用していた。数学CLIL実践に必要な英語については、自主学習した一部の名詞において活用していた。受講生の事後アンケートには、動画とテストを含むプログラムを初等英語教育法のシラバスで学習することで、自身の自主英語学習についての考察や工夫についての記述が多くみられ、また、本プログラムの経験を授業での活用に活かすことができたことが述べられていた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 執行智子・カレイラ松崎順子	4. 巻 2021 年度版
2. 論文標題 小学校における数学CLILに必要な言語使用 中学校教員の専門を生かすために	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『言語学習と教育言語学: 2021 年度版 Language Learning and Educational Linguistics 2021-2022』	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 執行智子・カレイラ松崎順子
2. 発表標題 小学校における数学CLILに必要な言語使用：中学校教員の専門を生かすために
3. 学会等名 日本英語教育学会・日本教育言語学会第52回年次研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 執行智子・カレイラ松崎順子・船田まなみ
2. 発表標題 現職教員のための小学校英語研修の考察
3. 学会等名 日本英語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 執行智子・カレイラ松崎順子
2. 発表標題 小学校教員養成課程における教室で使用する英語力と活用力の向上のプログラムの効果: 配信動画を活用した自主学习と授業中のテスト
3. 学会等名 日本英語教育学会・日本教育言語学会第53回年次研究集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	カレイラ松崎 順子 (Kareira, Matsuzaki Junko) (40454186)	東京経済大学・全学共通教育センター・教授 (32649)	
研究 分担者	執行 洋子 (Shigyo Yoko) (90789009)	東京都立産業技術高等専門学校・ものづくり工学科・助教 (52605)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------